



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



昨年の公演の様子

出石の魅力を芝居で伝える元気人

出石地域で市民劇団を立ち上げ、出石の魅力を、出石弁を交えた芝居で伝えている元気な男性を紹介しします。

中嶋勝己さん(46歳)出石町町分

出石の町が好き

「まあ、上^あがんにやあな」と気さくな出石弁で、自宅を出迎えてくれたのは、出石でそば屋を営む傍ら、自ら立ち上げた市民劇団「劇団憧憬^{あがれ}チャンプルー」の代表を務めている中嶋勝己さん。

親しい友人らに「一緒に芝居をやろう」と声を掛け、劇団を立ち上げたのは、平成17年のこと。劇団名の「憧憬^{あがれ}チャンプルー」は、芝居に対する憧れと、さまざまな個性や感性が混じり合うという思いから名付けられました。

中嶋さんは「芝居が好き。そして、出石の町が大好き。だから出石を舞台にした芝居をやろうと思った。動機は至って単純です」と笑いながら話します。

ハッピーエンドで苦勞

劇団の公演は、年に1回、地元の出石永楽館で行います。毎回、チケットは発売と同時にすぐに完売という人気ぶりで、特に昨年の公演では、中具市長がサプライズゲストとしてお奉行役で登場するなど、

満員の観客を大いに沸かせました。

中嶋さんは、役者としてはもちろん、演出、脚本も担当します。中でも脚本は、前年の公演が終わった直後からアイデアを考え、約3カ月かけて約50ページ、1時間半の台本を仕上げていきます。

中嶋さんは「公演には毎回新作を書き、再演はやりません。そして、内容は人情話の時代劇ですが、悪者(悪役)は作りません。チャンバラで人が死ぬシーンもやりません。出石には、そんな悪い人はいないから。でもそれだけに時代劇の脚本として書くのはとても難しいです」と話します。

伝えたい言葉

稽古^{けいこ}は、週に1回、中嶋さんの自宅倉庫にメンバーが集まって行います。そこで飛び交うのは、出石弁でしゃべる役者たちのセリフです。

「出石が舞台の芝居だから、セリフにも出石弁を使います。方言を伝えるとき、文章などて書き記しても、アクセント



▲劇団憧憬チャンプルーの代表を務める中嶋さん。そば屋を経営。趣味は、芝居、ゴルフ

やイントネーション、細かいニュアンスまではなかなか伝えられません。でも芝居のセリフでなら、それがとても分かりやすく、簡単に伝えられます。出石弁を伝えることは、出石の風情や情緒、歴史や文化を伝えることなのだと思います」と中嶋さんは話します。

面白くてやめられない

「劇団の仲間とスタッフ、家族や友人、そして芝居を観に来ていただくお客さんに本当に感謝しています。これからも出石の魅力を伝える楽しい芝居を作っていきたいと思っています。芝居は面白くてやめられません」と中嶋さんは話します。

今年の公演は10月28日。本番に向けて最後の仕上げと、準備に追われる日々が続いています。

保育園に広報ついでがやってきました!

21

資母保育園

(但東)

〈園児19人〉



たんたんトンネルの近くに位置する「資母保育園」(但東町中山)。

10月6日、「お月さまのつどい」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

お月さま、ありがとう

自然の恵みに感謝するため、今日は「お月さま」に「ありがとう」を言う日です。

「お月見」と言え、園児たちは、団子作り挑戦しました。



団子作りにはチャレンジだ!

「手を洗いましう!」すぐにでも作りたい気持ちを抑えて、きちんと手を洗います。つめが伸びてい



ないかどうかを確認し、2歳児はお供え用の白

い団子を、3

4歳児はお

やつ時間に自分

たちで食べるカボ

チャ入りの団子を作りました。

「できた!」「丸くなった!」

最初は、なかなかうまくできなかった団子

指導のおかげで次第に上手になりました。



へーんしん!どろんどろん!!

団子ができれば、準備もOK。楽しい「お月さまのつどい」のスタートです。

すると、「へーんしん!どろんどろん」と言いながら、ビニール袋で作ったタヌキの衣装を身にまとい、鼻と耳、ひげを付

けて、先生も一緒に、かわいいタヌキに変身です。

お月見の話が書かれた絵本を園長先生に呼んでもらった

り、「ポンポコたぬき」の歌を近くの山に住ん

でいる(?)タヌキに聞こえるように大きな声で歌った

り、ペットボトルで作った

ちようちんを持って、足にボールを挟んで競争するゲームをしたり。楽しい時間があつという間に過ぎていきました。

最後は、みんなで手をつないで「まんまるおんど」。園児たちも先生たちも、輪になって元気に踊りました。

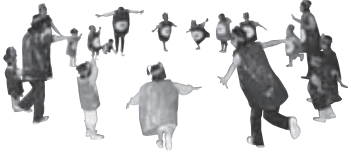
「お月さま」のように、みんな気持ちも丸くなり、すてきなつどいとなりました。

気持ちもまんまる!みんな仲良し!

最後は、みんなで手をつないで「まんまるおんど」。

園児たちも先生たちも、輪になって元気に踊りました。

「お月さま」のように、みんな気持ちも丸くなり、すてきなつどいとなりました。



笑顔の輪

全国に通用する選手を育てたい!

『出石少年柔道クラブ』(出石)

平成元年に設立された「出石少年柔道クラブ」(井上敏和会長)は、主に出石・但東地域在住の幼稚園児から高校生までの27人が在籍しています。毎週水曜日と土曜日、出石ふれあいセンター(出石町宵田)2階で、年齢に関係なく、また、男子と女子とが合同で練習を行っています。



▲乱取りの様子

女子を輩出しています。クラブの男子高校生も、但馬大会で優勝した実績を持ちます。クラブの特徴は、学年の隔たりなく仲良くできることです。しかも年上の子が年下の子の指導をして、小さな子も礼儀がしっかりしています。兄弟姉妹で入会する方もたくさんいます。中学生になると黒帯を取ることができるようになる年齢になります。

最後に、指導者の厳しい言葉も飛び、練習が終わるころには、道場の窓ガラスが曇るほどの熱気です。

矢野目さんは「このクラブの卒業生は、社会人になっても指導助手をしてくれる。若手が次々と育つので、世代交代が案外スムーズ」と話します。半面「中学校、高校では、指導者不足のせい、活動環境が不十分」との悩みも...

入会希望は、矢野目さんま

で。52-2100